令和7年度　小平市立小平第十五小学校　学校評価計画表

学校教育目標　心身共に健康で心豊かな人間の育成を期して、次の目標を設定する。
◎考える子　○思いやりのある子　○たくましい子

目指す学校像（ビジョン）

【目指す学校像】　・しっかり学び、元気と笑顔あふれる十五小　・感謝し、楽しみ、味わい、共に分かち合う十五小
【目指す児童・生徒像】　・学ぶ喜びや楽しさを実感し、意欲的に学習の課題や学習する方法をつかみ、最後まで追求し、解決できる子　・気持ちの良い挨拶や返事をし、すすんで人とかかわることができる子
【目指す教員像】　・こどもとこどもの成長を面白がり、共に味わい、分かち合う学校　・チームとして結束し、教職員同士の力量を知り磨き合う学校

前年度までの学校経営上の成果と課題

○特色ある教育活動として、対話を通じて学力向上部、特別活動部、食育推進部、更に地域教材を連携させたことで、児童の学力の定着や運動への意欲等が向上し、自ら考え、対話を通して学びを深める姿が見られるようになった。
○朝学習の年間計画を示し、算数や朝読書の推進を図る。また、登下校時の歩行の仕方には課題が残ったため、生活指導部で作成した「道路の歩き方」の動画を計画的に活用し、一斉指導と併せて継続的に指導していく。

	中期経営目標	短期経営目標	具体的方策	取組指標		成果指標	
特色ある教育活動	【学力向上】 確かな学力の定着と個別最適化された授業実践の充実を図る。 【体力向上】 体力の向上と、課題となる体力面の改善を目指す。 【食育推進】 食の大切さを知り、食文化の理解を深める。	【学力向上】 基礎・基本的な学力の確実な定着を図り、児童自らが考えや意見をすすんで表現し、協働的な学習を進めることで確かな学力を身に付ける。	自らの考えを発表したり交流したりする対話活動を組み込んだ授業実践を行う。児童アンケートによる実態調査を実施し、数値検証による改善策を実践に加える。	4	毎週1回以上実施　実施率90％以上	4	児童の80％以上が診断テストで80点以上
				3	実施率80％以上	3	児童の70％～79％が診断テストで80点以上
				2	実施率60％以上	2	児童の60％～69％が診断テストで80点以上
				1	実施率60％未満	1	児童の60％未満が診断テストで80点以上
		【体力向上】 全学級、体育の授業で体力向上の取組を実践する。また、児童の実態調査を行い、数値検証からも向上を目指す。	全学級の体育の授業、導入、または準備運動の場面で、『鬼遊び』を実施し、様々な運動面での体力向上を目指す。また、年度中に伸び率を検証し、今後の指導に反映する。	4	授業時数の80％以上で実施	4	児童による肯定的評価80%以上
				3	授業時数の70％以上で実施	3	児童による肯定的評価70%以上
				2	授業時数の60％以上で実施	2	児童による肯定的評価60%以上
				1	授業時数の60％未満で実施	1	児童による肯定的評価60%未満
		【食育推進】 栄養素や食文化の理解推進を図り、旬の野菜や小平産メニューの良さや地産地消の大切さを理解する。	給食放送や毎日の給食だよりを実施し、季節の料理や行事食、栄養素の大切さなどの理解推進を行う。小平野菜や旬の野菜を食す良さを学び、食の大切さを理解する。	4	全教職員が1回以上実施　実施率90％以上	4	児童による肯定的評価80%以上
				3	実施率80％以上	3	児童による肯定的評価70%以上
				2	実施率60％以上	2	児童による肯定的評価60%以上
				1	実施率60％未満	1	児童による肯定的評価60%未満
健全育成	基本的生活習慣を身に付けさせ、すすんでよりよい生活を築く力（たくましく生きる力）の育成を図る。	学年・学級経営の充実による基本的生活習慣の確立と規範意識の醸成を推進する。	登校時の挨拶、声かけ、担任の教室出迎えを行い、教師自身が手本となり実践する。	4	毎日実施　実施率90％以上	4	児童による肯定的評価80%以上
				3	実施率80％以上	3	児童による肯定的評価70%以上
				2	実施率60％以上	2	児童による肯定的評価60%以上
				1	実施率60％未満	1	児童による肯定的評価60%未満
	いじめ防止の取組として、人権教育を通し、人も自分も大切にする児童の育成を図る。	いじめの未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行い、いじめ対策委員会を中心とした早期解決にあたる。各教科等を通し、人権を尊重する児童の育成を目指す。	定期的にいじめ調査と生活指導夕会や学年会などで情報交換を確実に行い、統一した指導を行う。人権教育全体計画をもとにを教科の特性に合わせた人権教育を実施する。また、学校での教職員の取り組みを学校通信やHP等で周知し、地域や家庭の協力を仰ぐ。	4	毎週実施　実施率90％以上	4	児童による肯定的評価80%以上
				3	実施率80％以上	3	児童による肯定的評価70%以上
				2	実施率60％以上	2	児童による肯定的評価60%以上
				1	実施率60％未満	1	児童による肯定的評価60%未満
デジタル推進	ICT機器や学習者用端末等を活用し、より効果的な教科指導に努めると共に、ICT活用技術の向上、また、ICTを積極的に正しく活用できる児童の育成を目指す。	デジタル教科書、デジタルドリル等を活用したり、協働学習を推進したりすることにより、児童の可能性を引き出していく。	各学級での活用実践を取りまとめ、実践事例を報告すると共に、研修会を行う。デジタル教科書の積極的な活用を推進する。	4	実施率80％以上	4	児童の肯定的評価80%以上
				3	実施率70％以上	3	児童の肯定的評価60%以上
				2	実施率60％以上	2	児童の肯定的評価40%以上
				1	実施率60％未満	1	児童の肯定的評価40%未満
		発達段階に応じた文字入力、電子ファイル送受信や保存、情報の閲覧等の基本操作を身に付けさせる。	情報課から提案されている学年別の目標を常に意識し、日々の教育活動の中に適宜取り入れる。	4	年間4回以上実施	4	児童の肯定的評価80%以上
				3	年間3回実施	3	児童の肯定的評価60%以上
				2	年間2回実施	2	児童の肯定的評価40%以上
				1	年間1回実施	1	児童の肯定的評価40%未満
開かれた学校づくり	保護者・地域に信頼され、地域に開かれた魅力ある学校づくりのため、コミュニティスクールを活用し、特色ある教育活動を推進する。	地域の人材活用等、家庭・地域との連携を深め、地域の教育力を学校教育に積極的に活用する。	生活、社会、理科、総合的な学習の時間、各教科の学習に地域の人材を活用する。 （社会人ボランティア登録カードの活用） （学童農園、図書ボランティア、地域教材、安全、防犯等）	4	全学年で地域の人材を活用	4	児童の肯定的評価80%以上
				3	3分の2以上の学年で地域の人材を活用	3	児童の肯定的評価60%以上
				2	3分の1以上の学年で地域の人材を活用	2	児童の肯定的評価40%以上
				1	地域の人材の活用が未実施	1	児童の肯定的評価40%未満
		学校の情報を家庭・地域に積極的に発信する。	学校通信、ホームページ等を通じて学校での教育活動を伝える。また、保護者会を工夫し、情報を発信する。	4	毎週伝えた	4	保護者の肯定的評価80%以上
				3	月に2回伝えた	3	保護者の肯定的評価60%以上
				2	月に1回伝えた	2	保護者の肯定的評価40%以上
				1	月に1回未満	1	保護者の肯定的評価40%未満
業務改善・働き方改革	児童理解、学習指導、生活指導等、児童に向き合う時間を生み出す。	教職員を中心とした業務改善と、地域・家庭への理解を促進する。	教育効果を検討し、改革改善していく。（SSS等の制度活用、職員会議の効率化、ペーパーレスの取り組み、次年度の行事精選等）	4	教職員が意識して取り組めた。80％以上	4	学校経営協力者の肯定的評価80％以上
				3	教職員が意識して取り組めた。70％以上	3	学校経営協力者の肯定的評価70％以上
				2	教職員が意識して取り組めた。60％以上	2	学校経営協力者の肯定的評価60％以上
				1	教職員が意識して取り組めた。60％未満	1	学校経営協力者の肯定的評価60％未満